

消防千葉

2014 No.531 平成26年10月号

平成 26 年 10 月 1 日 編集兼発行人
千葉市中央区仁戸名町666番地2 千葉県消防会館内
公益財団法人千葉県消防協会会長 石橋 毅
TEL043(263)9885
郵便番号 260-0801 (定価 50 円)
ホームページ <http://business4.plala.or.jp/chisyo/>
メールアドレス chisyokai@bz04.plala.or.jp



「みのりの郷東金」東金市（山武支部）

巻 頭 言

「安全で住みよい四街道市を目指して」

四街道市消防本部 消防長 能城 俊一



四街道市は、都心へ約 40km の圏内にあり、市域は概ね平坦で、千葉市と佐倉市に接し、東西 7km、南北 9km、面積 34.7km²です。

昭和 30 年 3 月に、千代田町と旭村の合併により四街道町が誕生し、当時の人口は約 18,000 人でした。昭和 40 年代前半から旭ヶ丘グリーンタウン、千代田団地、みそら団地などの大型団地が誕生し、首都圏のベッドタウンとして急速に人口が増加するとともに、自然と都市機能が調和したまちとして成長してきました。

昭和 56 年 4 月に市制が施行され、現在も人口の増加が続き、約 91,000 人の市民と共に、「未来を創造する市民参加のまちづくり」を推進しております。

消防組織は、昭和 42 年 10 月に、現消防署の前身である消防団常備部を職員 10 名により発足、その後、昭和 46 年 4 月に消防本部及び消防署を設置しました。以来、その時々々の社会情勢の変化に対応するため消防力を強化し、現在は、1 署 2 分署体制で 112 名の消防職員により、市民の安全を確保すべく消防行政を推進しているところです。

近年、団塊の世代の大量退職による、急激な世代交代がおこり、従前より懸念されている「ベテラン職員の退職による消防力の低下」をきたさぬよう、各種研修機会の充実を図り、また、定年退職者を再任用職員として採用することで、若手職員への知識・技能の伝承に努めております。

一方、消防団は、消防団員の担い手不足や高齢化が進み、減少傾向に歯止めがかからない状況が続いております。消防団に対する期待が高まる状況に反して、消防団を取り巻く社会環境は依然厳しい状況となっており、地域防災力の充実強化を図る必要性を考えると、消防団員の処遇改善及び人員確保は重要課題であると認識しております。

災害の大規模化・多様化に加え、少子高齢化の進展に伴う救急ニーズの高まりなど、消防を取り巻く環境は大きく変化しており、この状況に迅速かつ的確に対応していくことが、消防に課せられた使命と考えております。今後も、消防に寄せられる期待をしっかりと受け止め、「安全で住みよい四街道市」の実現のため、住民の生命、身体及び財産を守る責務を全うして参りたいと考えております。

また、20 消防本部（局）による「ちば消防共同指令センター」の共同運用によって、消防・救急体制の強化が図られたことを実感しており、更に県内の各消防本部（局）の連携強化に繋がることを期待しております。

第35回九都県市合同防災訓練・千葉県会場訓練 「南房総市和田町南三原」を主会場に実施！

本訓練は、「第35回九都県市合同防災訓練実施大綱」及び「千葉県総合防災訓練実施方針」、「千葉県地域防災計画」、「南房総市地域防災計画」に基づく総合防災訓練を実施し、住民、自治体、防災関係機関、ボランティア団体等の災害応急対策の連携状況等について検証し、今後の防災対策の充実、強化に資するとともに、防災意識の高揚及び減災への備えを図り、もって県民の生命、財産を災害から守り、安全で安心な生活を確保することを目的とする訓練で、その訓練の概要は次のとおりです。



訓練概要

1 訓練方針

住民相互、防災関係機関等との緊密な連携・協力を図るとともに、津波避難、孤立地域支援、要配慮者の安全確保など、地域特性に応じた実践的な訓練を実施する。



2 実施日時・場所

(1) 主会場訓練

日時 平成26年9月6日(土)

11:00～12:30

場所 和田地域福祉

センター前

(南房総市和田町南三原地先)



(2) 海上訓練

日時 平成26年9月6日(土)

10:00～11:00

場所 旧南三原公民館付近

(南房総市和田町)



3 訓練想定及び訓練内容

(1) 訓練想定

平成26年9月6日(土)8時30分頃、房総半島沖を震源とするマグニチュード8.2の地震が発生し、南房総市では震度6強を記録するとともに建物の倒壊や道路が損壊、電気、ガス、水道等のライフライン機能が麻痺している。

また、この地震により、千葉県九十九里・外房地域に津波特別警報が発表され、南房総市和田町では高さ8メートルを越す津波が襲い、付近一帯で家屋や車両が巻き込まれるなど甚大な被害が発生した。



(2) 訓練内容

ア 千葉県及び南房総市は、災害対策本部を設置し、自衛隊の災害派遣要請や九都県市の相互応援協定等に基づく支援要請を実施する。

また、医師会、歯科医師会、接骨師会、看護協会等の医療関係機関に現地派遣を要請し被災地における応急救護所を設置する。

イ 甚大な津波被害の発生した海岸においては、海上自衛隊や海上保安庁、警察等による捜索活動を実施し被災者の救助活動を実施する。

ウ 各消防本部は県内応援協定に基づく周辺消防本部の応援や消防団と協力し、住民や観光客等の津波避難や火災の消火、防御措置を行い被害の拡大防止を図る。



エ 被災地に到着した警察、消防、自衛隊は、航空機や車両等により被災情報の収集を行うとともに、孤立地域からは航空機やロープ橋を使用して被災者の救助活動を実施する。また、崖崩れ等により押し潰された車両や家屋等に対しては、災害救助犬等と連携し救助活動を実施する。



オ 社会福祉協議会等は、災害ボランティアセンターを設置し、駆けつけたボランティアと協力し、応急救援物資の仕分け、搬送等の各種支援活動を実施する。

カ 東京電力、NTT、水道事業者、交通信号機工事業者等は、震災により破損したライフライン等の応急復旧作業を実施する。



カ 東京電力、NTT、水道事業者、交通信号機工事業者等は、震災により破損したライフライン等の応急復旧作業を実施する。



4 主催者 及び 参加団体

主催者 千葉県、南房総市、(公財)千葉県消防協会

参加機関(団体) 約130機関、

参加人員 約5,000名

平成26年度 千葉県石油コンビナート等防災訓練の実施

「第35回九都県市合同防災訓練実施大綱」及び「千葉県石油コンビナート等防災計画」に基づき、南関東地域における直下地震に備えて特定事業所、共同防災組織が主体となり発災対応型訓練を実施することにより、災害応急対策の整備・運用の充実を図るとともに、特定事業所、共同防災組織及び防災関係機関相互の応援体制の確立に資するため、平成26年8月22日(金)午後2時から4時までJX日鉱日石エネルギー(株)市川油槽所及び周辺海域において石油コンビナート等防災訓練が実施されました。

訓練は千葉県石油コンビナート等防災本部が主唱し、千葉県、市川市、船橋市、京葉臨海北部地区石油コンビナート等特別防災区域協議会が主催したもので、県や海上保安部など13機関から約210名が参加しました。

首都地域の直下を震源とする地震が発生した。その規模はM8.2、市川市の震度は6強を記録、屋外貯蔵タンクからの灯油の漏えいが起き、作業員の負傷等が起きたと想定し、主な訓練として次の訓練を実施しました。



1 陸上訓練

- ① 地震初期対応訓練
- ② 発見連絡通報訓練
- ③ 現地対策本部設置訓練
- ④ 漏油防止対応訓練
- ⑤ 土嚢構築訓練
- ⑥ 現地指揮本部設置訓練
- ⑦ 救出救助訓練 等



2 海上訓練

- ① 地震初期対応訓練・通報訓練
- ② オイルフェンス展張訓練
- ③ 現地調整本部設置訓練
- ④ 浮流油調査・洋上ガス検知訓練
- ⑤ 流出油回収訓練
- ⑥ オイルフェンス展帳訓練
- ⑦ 災害広報訓練 等



第33回 全国消防殉職者慰霊祭

平成26年9月11日(木)、「第33回全国消防殉職者慰霊祭」が日本消防会館ニッショウホールで殉職者遺族、各県の消防協会関係者等の出席により執り行われました。

昭和23年の自治体消防発足以来、旺盛な郷土愛護と崇高な消防精神に燃え、全国の消防職団員による地域に根ざした防災活動の展開のなかで、残念なことに毎年消防殉職者が発生しており、その御霊は新たに合祀した3柱を加えて5,682柱を数えております。

式では秋本敏文日本消防協会長の式辞、安倍内閣総理大臣、高市総務大臣及び遺族代表の追悼のことば、参列者の皆様の献花が行われた後、江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)が披露されました。

千葉県からは遺族の方3名と佐倉市及び山武市職員、千葉県消防協会事務局など7名が参加しました。



式辞を述べる秋本日本消防協会長



安倍総理大臣の追悼の言葉



高市総務大臣の追悼の言葉



遺族による献花



(社)江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)

第158期 消防職員初任科生卒業

千葉県消防学校

平成26年9月18日(木)、千葉県消防学校の消防職員初任科第158期の卒業式が行われました。

4月の入学から6ヶ月、29所属129名の若々しい消防職員が厳しい研修を終了し、消火・救急救助知識及び技術を習得し、それぞれの職場に戻り、第一線で活躍することになります。

当日は、開式のことば、国歌斉唱の後、各人が緊張した面持ちで卒業証書の授与を受け、最優秀賞1名、優秀賞12名、努力賞13名の表彰が行われ、酒井千葉県消防学校長の告示、森田千葉県知事(代理 吉田防災危機管理部消防課長)・石橋千葉県消防協会長等の祝辞がありました。



学校長告示



知事(吉田課長)祝辞



石橋会長祝辞

また、前日の17日(水)には、教育訓練の成果を確認するために10時から消防学校屋外訓練場において「実科査閲」が行われ、青空のもと入場行進、通常点検、小隊訓練、救助訓練、機器取扱等の基本訓練、最後には災害防御活動の部隊行動を基本として一斉放水訓練が、初任科で習得した消防活動・救急活動の集大成として全員により行われ、火災防御・救急救助技術を披露しました。



わが町の消防団 ① 九十九里町消防団



九十九里町は、千葉県の北東部、首都圏から概ね60km圏域に位置し、全長約66kmの雄大な九十九里浜のほぼ中心に位置しており、太平洋という広大な海から様々な恵みを受けております。町としては、「観光産業」を中心に、地域の特色を活かしたまちづくりを推進しています。

また、本町は海岸に接し、平坦な地形であり、高潮や津波等の自然災害を受けやすい地域となっていることから、町消防団は、多種多様な災害への対応が求められています。

九十九里町消防団の組織としては、8分団19部で構成され、本部指揮車1台、消防ポンプ自動車(水槽付)8台、消防ポンプ自動車7台、小型動力ポンプ付積載車(水槽付)4台、資機材運搬車1台を配備しています。全365人の団員は、九十九里町民約1万7千人、町面積23.72km²の安全・安心の守り人として、昼夜を問わず貢献的な活動を続けています。

消防団の主な行事としては、年始めの消防出初式をはじめ、規律訓練、町消防ポンプ操法大会、海難救助訓練、火災予防週間及び歳末特別警戒期間の広報・啓発活動を実施し、様々な形で地域住民の安心に寄与しています。特に、町消防ポンプ操法大会は、消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図るとともに団員相互の連携を密にし、消防活動の円滑化と強化に寄与することを目的として開催されています。大会訓練期間では、各部が優勝を目指し、それぞれの本業の傍ら日夜長時間に渡る訓練を実施しており、大会当日は大きな盛り上がりを見せています。

また、中継訓練、普通救命講習、水防訓練も実施しており、多種多様な災害・事故に対応できるよう体制を整えています。さらに、各部においては月に1度管轄区域の消防水利の点検を実施し、災害に備えています。

東日本大震災以降、消防団を中核とした地域防災力の充実強化が謳われており、消防団への期待、所望が強くなってきています。その中で、消防団員数の確保、装備の充実を図り、地域防災の担い手として活動し、地域住民が安心して暮らせる町づくりに貢献していきたいと考えております。



わが町の消防団 ② 匝瑳市消防団



匝瑳市は、千葉県の北東部に位置し、千葉市からは40km圏、東京からは70km圏、成田空港からは車で30分の距離にあります。市の中心部をJR総武本線と国道126号が東西に走り、成田方面とは国道296号で結ばれています。

市の総面積は、101.78平方キロメートルを有しています。北部は、谷津田が入り組んだ複雑な地形の台地部となっており、里山の自然が多く残されています。南部は、平坦地で市街地を除いてほとんどが田園地帯となっており、白砂青松の続く九十九里海岸に面しています。

匝瑳市消防団は、670名(平成26年8月1日現在)の消防団員、団本部・14分団41ヶ部の組織、指令車2台・消防ポンプ自動車10台(うち水槽付2台)・小型動力ポンプ付積載車31台(うち水槽付12台)の消防車両を有し、約3万9千人の市民の生命・財産を守っています。

消防団の主な年間行事として、5月には全団員を対象に消防団員としての心構え・知識の習得や消防団員の基礎となる規律訓練を行い、団員の資質向上を図っています。6月には市消防操法大会を開催し、連日の厳しい訓練の成果を披露しています。11月には秋の火災予防運動にちなみ、各々貸与された消防ポンプ等資機材の操作



方法、基本的な規範の習熟度を再確認するため、実戦に即応した放水訓練を実施しています。年末には歳末特別警戒を実施し、市民に火災予防を呼びかけております。年が明けて1月には新春恒例の消防出初式を挙行し、団員は更なる団結・士気高揚の決意を新たにして臨んでおります。

現在、匝瑳市消防団は団員の被雇用化や高齢化が進み、団員の確保に苦慮しています。今後は、機能別消防団員や機能別消防分団制度の導入等を視野に、消防団の活性化を図り、市民の安全を守っていかねばならないと考えております。



東 西 南 北

東 西 南 北 潜水業務開始 野田市消防本部

野田市消防本部では平成26年4月1日より、潜水器具を用いて潜降し、要救助者の捜索・救出等を行う潜水業務を開始しました。

水難救助隊員は消防署長から14名が任命され、各種水難事故に対応するものです。

当市は、江戸川・利根川・利根運河の一級河川により周囲を囲まれている事から、各種の水難事故が発生し、近年は潜水活動を必要とする事案も発生しております。

6月27日には実災害を想定して、警防隊、救急隊、潜水隊の連携を目的とした水難事故対応訓練を実施いたしました。

今後は近隣消防本部(局)や警察機関等と、管轄を越えた連携訓練を実施していきたいと考えています。



東 西 南 北 夏祭りにて防火キャンペーンを開催 船橋市北消防署

船橋市北消防署(真木 照 署長)では、平成26年7月30日(水曜日)、火災予防活動の一環として管内の商店会が主催する夏祭りで広報活動を行いました。

当日は、夏休みで多くの子供達が参加する中、消防隊員及び女性消防団員による心肺蘇生訓練や、はしご車搭乗体験などを実施して、防火及び応急手当に関する普及啓発と意識高揚が図られました。



東 西 南 北 校外合宿による消防活動訓練 千葉市消防局

千葉市消防学校では、8月5日(火)から8月8日(金)までの4日間、群馬県高原千葉村にて、初任科生の校外研修(合宿による消防活動訓練)を実施しました。

最高気温38℃の炎天下の中、急勾配での体力強化訓練、ゲレンデでの林野火災対応・消防活動総合訓練(消火・救助・搬送・応急措置等)、山岳耐久訓練(谷川岳1,963m)などを、互いに声を掛けあい、励ましあいながら懸命に行いました。

当消防学校において、本訓練は初任科の恒例行事となっており、校外という新鮮な気持ちの中での充実した訓練によって、スキルアップを果たすとともに、同じ志を持つ同期がさらに絆を深めることを目的に実施しています。



【林野火災対応・消防活動総合訓練：ジェットシューター隊】



【山岳耐久訓練：谷川岳】

東 西 水難事故対応の消防局長特別点検を実施 南 北 松戸市消防局

松戸市消防局では、8月8日(金)、全国各地で多発する様々な水難事故に対応するため、西口消防署水難救助隊は「橋上を走行中の乗用車が江戸川へ転落、助手席の1名は車外へ放り出され、運転者1名は乗用車内に取り残された状態で乗用車は水没した。」想定で消防局長特別点検を実施しました。訓練では、松戸緊急用船着場において救命ゴムボート2艇を使用、水難救助隊員が江戸川に潜水し、水没した要救助者を検索救助する「環状検索」、水面で溺れかけている要救助者を救助する「水面救助」を行い、消防局長による点検を受けるとともに更なる連携強化及び技術の向上を図りました。



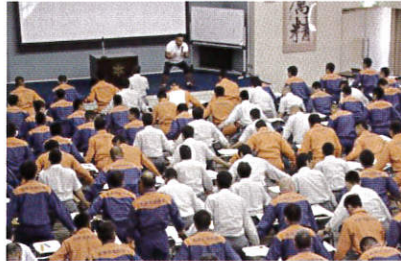
東 西 安全管理研修を実施 南 北 市原市消防局

市原市消防局では、平成26年8月19日(火)、20日(水)の2日間、当市消防局において、株式会社タフ・ジャパン 鎌田修広代表を講師に迎え、全職員を対象に「安全管理研修」を実施しました。

講義は、民間企業や他の消防本部の最新の先進事例を交えながら、人材の適正な育成が安全管理の根本となること、組織の基礎単位となる職員個々の状態が組織に与える影響、良好な組織であるために職員がすべきことなど、安全管理につながる組織力の向上方法を職員が体感しながら学ぶことができた有意義なものとなりました。



【鎌田講師】



東 西 親子で学ぶ救命講習「迷わず胸骨圧迫とAEDを！」 南 北 船橋市消防局

船橋市消防局（伊藤 陽基 局長）では、平成26年8月22日(金)、23日(土)の2日間、夏休み特別企画として市内の小学4年生から6年生までの児童とその保護者37組75人を対象に、胸骨圧迫とAEDの使用方法を学ぶ救命入門コースを開催いたしました。

これは、小学生高学年のうちから心肺蘇生法を学びAEDに触れることで、いざという時に迷うことなく胸骨圧迫を行い、AEDを使用できるような大人になってもらいたい。人の命の尊さや重さを親子で話し合うきっかけとしてほしい。また、夏休みの宿題である自由研究の題材として、学校で発表し、先生や他の小学生が興味を持つのではないかなどの思いから企画したものです。

訓練人形を相手に大人顔負けの素晴らしい胸骨圧迫と素早いAED操作をしていた小学生は「今日の講習を生かし、倒れている人がいたら、躊躇なく行動したい。難しくても頑張る」と頼もしく話していました。

当市では、昨年の8月1日から市内のコンビニにAEDを配置し、市民に対しAEDがより身近なものになってきております。今後も救命講習等を通じ、更なる救命率の向上を図ってまいります。





台風シーズンに備えて 警防研修会を実施

佐倉市八街市酒々井町消防組合



佐倉市八街市酒々井町消防組合(今井定男消防長)では、平成26年8月28日(木)、29日(金)、電気災害についての警防研修会を実施し、54名の職員が参加しました。

今回の研修会は、昨年の台風26号の教訓から、特に風水害時に発生が懸念される配電線災害の対応について学ぶべく、東京電力成田支社から5名の講師を招き、電気の基礎知識、配電設備の仕組み、電気火災事故事例等についてそれぞれの専門部門ごとに講義を受けました。

台風シーズン前に研修会を実施したことで、配電線の断線時の初動対応について再確認することができました。また、職員から質問の多かった太陽光発電についても補足説明をいただき、今後の消防活動につながる有意義な研修会となりました。



「防災の日」前に訓練参加しました

千葉市消防団

平成26年8月31日(日)9都県市合同防災訓練に千葉市消防団が参加しました。

本訓練は東京湾北部を震源としたマグニチュード7.3の地震が発生したとの想定の下、消防・警察・自衛隊など40機関、約2千人が参加し、主会場の市立みつわ台中学校(若葉区)には、熊谷俊人千葉市長が出席し訓練を視察しました。

千葉市消防団からは、初期消火訓練、救出・救護訓練に50人以上の消防団員が参加し、常備消防や関係機関と連携した消火活動や救護活動を実施しました。

千葉市消防団では、危機意識が薄れることのないよう、今後も関係機関と連携した訓練を実施し、大規模地震災害等の発生時において市民の生命、財産等を保護するため、災害対応能力の更なる向上を図って参ります。



水難救助連携訓練を実施

千葉市消防局

千葉市消防航空隊は、平成26年9月8日(月)から11日(木)まで東京湾・千葉市内海域において、消防ヘリコプター「おとり1号」、消防艇「まつかぜ」、中央消防署特別救助隊及び美浜消防署特別救助隊が連携して溺者救出等の習熟を図る為に水難救助訓練を実施しました。溺者を確保後、海面上5m程吊り上げた状態で空中移動して消防艇のデッキ上に収容する内容の訓練を実施しました。

今回の訓練によって、実災害における共通の認識を持つことができ、更なる連携強化を図ることができました。



溺者吊り上げ



消防艇のデッキ上に収容中

日々の動き

防災危機管理部／消防協会 共同編集

平成 26年度 10月

- 10月 8日 千葉県消防協会臨時理事会（千葉市）
 第 20 回全国女性消防団員活性化ちば大会第 3 回実行委員会（千葉市）
 第 38 回空気呼吸器装着訓練（千葉市消防学校）
- 14日 第 24 回全国消防操法大会激励会（千葉市千葉県庁）
- 18日 防火防災フェスティバル（西部防災センター）
- 23日 第 50 回消防殉職者慰霊祭（千葉市消防学校）
- 27日 第 20 回全国女性消防団員活性化ちば大会第 10 回運営委員会（浦安市）



平成26年 秋の全国交通安全運動 9月21日(日)から9月30日(火)

スローガン

～身につけた？ ルールとマナーと 反射材～

- 重点目標
- 1 子どもと高齢者の交通事故防止
 - 2 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
 - 3 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 - 4 飲酒運転の根絶

平成 26 年度 全国統一防火標語

「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」

<表紙の説明>

「みのりの郷東金」東金市（山武支部）

花木センター跡に平成 26 年 4 月にオープンしました『みのりの郷東金』は、東金市緑地に新鮮な農産物をはじめとする特産物の直売や地元の食材を使ったレストラン、植木のは場、市民サークル活動の発表の場としてのイベント広場を兼ね備えた産業交流拠点施設です。

また、店内にある巨大スクリーンには、城西国際大学の学生が制作した東金市の四季をはじめとした PR 映像を放映するなど情報発信の基地としても機能しています。 **みのりの郷東金**

所在地：東金市田間 1300 - 3



記事の訂正について

平成 26 年 9 月号の 4 ページ（公財）千葉県消防協会賞 島崎香蓮さんの「しまざきかれん」のよみかたに誤りがありましたので、お詫びして訂正します。